



大門小だより

11月号

平成30年10月30日

横浜市立大門小学校

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子



読書週間に寄せて

校長 佐藤 峰子

私の鞆の中には、必ず文庫本が一冊入っています。通勤の電車の中や、ちょっとした待ち時間などに読んでいます。鞆に本を入れ忘れたときは、なんだか心もとないような、落ち着かないような心持ちになります。趣味やリラックス方法を聞かれて、本を読むことと答えることが度々あります。質問された方は、「読書家なんですね」とか「勉強家なんですね」と言われますが、自分ではそのような意識は全くなく、しいて言えば活字好きかなと思っています。

いまでこそ活字好きといえる私ですが、小学校の6年生になるまでは図書室に行ったり、本を読んだりという記憶がなく、朝から夕方まで、汗だくで外遊びに興じる子でした。同じように体を動かすことが好きな男の子が遊び友達でした。本を読むようになったのは6年生の秋ごろで、きっかけを書くと長くなるので割愛しますが、図書室の本棚の前で、卒業までにこのコーナーの本を全部読むと決めたことでした。コナン・ドイルの「シャーロック・ホームズ」シリーズから始まり、伝記、日本の作家の作品と読書の幅が広がっていきました。我が家では、本を買ってもらえるのは本当に少なかったので、図書室が自分の本棚と思っていました。

近年、本離れ、活字離れが進み、加えて電子書籍の普及もあり、本が売れないと出版業界は危機感を募らせていると聞いています。町で親しまれていた本屋が閉店し、少なくなってきているのも事実です。ですが、小さい子どもに読み聞かせを行っている家庭があり、大門小学校でも水曜日の朝に「おはなしダイヤモンド」の皆さまによる読み聞かせも行われるなどの取組があります。

10月27日（土）から11月9日（金）までの2週間は、「秋の読書週間」です。この読書週間は、公益社団法人読書推進運動協議会が主催しています。始まりは古く、戦争の傷跡が残っていた昭和22年、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・書店、公共の図書館が手を携えて呼びかけ、マスコミ各社の協力を得て実施されたと聞いています。終戦から2年しかたっていない年に始まった読書週間。当時の人たちにとって、本を読むということ、楽しめるということは、平和を実感し、国を復興させる力となったと想像されます。

今年、72回目の開催となる「読書週間」は、今や国民的行事として定着しているといえるでしょう。読書週間には、一般公募によるスローガンがあります。今年は、「ホッと一息 本で一息」が選ばれました。深まる秋を読書とともに、ホッと一息くつろぎながら過ごせたら素敵ですね。

学校だよりで恐縮ですが、長年大門小学校の図書室の本を修理していただいている「リブック瀬谷」の皆様、朝早くから昼食持参で、無償で本を修理していただいていることに心からお礼を申し上げます。